

■ 閉まるつわさ

「とうとう閉めるのか。当地域唯一の小売店舗も閉まってしまうのか。残念。スーパーも競合ひしめくなかJAの店舗として、地域密着型の店舗として、地域コミュニティの場として少なからず用をなしていたのに。なんとかして存続をしてもらえないのか自分自身そう願っていた。経営上の理由からやむを得ず撤退となってしまうのか。と、静観しながらも依然かかわっていたこともあり、寂しさを感じる想いでありました。

JA店舗の閉店のつわさが流れ出し、口々に「よわる。困る」との声があちこちで聞こえてきていた。

みんな困るなあ。誰が困るん。身近に小売店舗がなくなると困るのは、やっぱり年寄りか。交通手段のない人、徒歩で買い物をする方がやはり困る。



特集3

誰が困るん

地もの市場 田舎家 店長
越智 尚司
(四国中央市)

車社会である現代において、郊外の店舗、大型店への買い物へと消費者にとっては選択の幅があり、地域外への買い物客の流失が現実となっている。ただ、競争という現実を考えるとこれもやむを得ないのか。とはいえ、やっぱり困るのでなんとかしてほしい。そんなおり、JAも店舗跡地の利用方法を検討し、賃貸による小売店舗のオーナーを探していたようであった。

■ 立ち上げ準備から

結局、株式会社「田舎家」は、地元の井原茂さんが、「地元のために、何とかしたい」と引き受け、準備が始まった。

約124坪の店舗面積を運営していかなければならぬ。どんな店舗にしていけばよいのか。思案の始まりである。緑あつてか店長の任を承ることとなり、社長との店作



農産物売り場の様子

りの打ち合わせが始まり、旧JA店舗の跡地「施設」を利用しての店舗展開のあり方、方針等を整理し具体的な運営方法を決めて行かなければならない。

オープン日の決定から、人員の採用等店舗開店に向けて必要な諸手続きや事前準備の打ち合わせと、様々な事をクリアしていかねければならなかった。大変であった。

■ 店舗運営の理念の決定

鮮度満足をお客様に！安心・安全な地元産品の提供を！顧客志向に出来るべくをモットーに！当社は誠実に地域社会の食の貢献を目指します。

店作りには際しては、大変立派な文言を決めました。果たしてこれから理想どおり



加工品売り場の様子

いくつか一抹の不安を抱えながらのスタートでありました。四国中央市の豊岡地域の人寄りするところが無くなる。地域の人々が普段顔を会わす機会がなくなる。ちよつとした出来事が、顔見知りの人との付き合いが、なんとなく減っていく気がする。町が寂れる。どここい、そのようにならないために、地元の人が頑張ってくれる。また、私もその一員として頑張らねば。

■ 地もの市場 田舎家命名

店舗名は、田舎で地域の産物を主体にした店舗展開をするため、市場風の一部改装し、地元生産者の農産物及び加工品や地元漁協より毎朝買い付けた魚介類を、新鮮直送便取扱店舗として販売していこうと考え、「地もの市場田舎家」と命名しました。

また、地産地消の取り組みを行っているJAうまの協力により、ジャジャうま市(生産者コーナー)の店内販売を同時に行うことを決定し、店舗の売場の半分近くを地元産物を中心に展開し、スーパーで取り扱う最寄品(生活必需品)の品揃えをすることとしてスタートしました。なお、地域で製造された商品を取り扱い、地域の業者との取引関係を築きながら、一部委託販売方式を取り入れてのスタートでした。

■ 厳しい道のり

5月20日、なんとかオープンセールを済ませ、準備も充分とはいえない中、関係者のご協力を得ながら現在に至っております。大変厳しい状況ですが、地域利用者の声を聞きながら、またJAの協力を得ながら店舗運営を続けられるよう知恵を出し合い、粉骨砕身でやっていかねばなりません。

「お年寄りが困る」とはいえ、社長にとってはボランティアで経営はやっていけないのも現実です。なんとかしていかねばなりません。開店以来3か月が経過し、それぞれが改善しつつも荒波の中を航海中でありませう。

■ 光明の兆し

瀬戸内の小魚を中心に、鮮魚の朝市を週2回の実施。精肉では愛媛県産の牛肉「伊予牛絹の味」ブランドと豚肉では「媛ポー



水産物売り場の様子

ク」を、鶏肉は愛媛県産とすべて県内産を中心に扱っております。地産地消、安全安心を全面に進めていき、そのことが、徐々に定着し、利用者にも支持されてきている感があります。また、関係者を含め取引関係にある方々のご協力により、精肉等の予約販売にご理解をいただき進めております。今後は、他の商品の取扱い拡大を目指し、予約販売へ向けて売上拡大へ繋げていき、地域のコミュニティの場として、地域の店として愛され存続できるよう誰も困らんように頑張らんと。頑張らんと、の想いで邁進中です。